

公務員試験対策ゼミB		講義	准教授 黒沢 賢一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	11220138 12220155 13220146 22200130	

### 1. 授業のねらい・概要

公務員試験の教養試験分野の問題は大きく一般知能と一般常識(知識)に分けられるが、その可否を決するのは一般知能の問題である。一般知能はさらに判断推理、空間把握、数的推理、資料解釈などに分けられ、この授業では数的推理と資料解釈について、その問題の解き方を講義する。数的推理は小、中学校で勉強した算数、数学の知識をもとに答えを求めていくもので、資料解釈は与えられた図表から情報を読み取る問題である。特に数的推理については苦手意識を持つ学生が多く見受けられるが、授業では問題を解くために必要になる算数、数学の知識を復習しながら問題を解き進めていくので得点源にすることは十分可能である。試験に出題される問題はほぼ決まっているので、それを解くための解法パターンをひとつでも多く身につけていくことが大切である。合格ラインをこえるために必要な解法パターンはこの授業ですべて身につけることができるようにする。また数的推理と資料解釈の講義と並行して、授業では一般常識の主要科目である社会科学の試験に出るポイントも解説し、さらに小論文、作文、適性検査の対策法についても講義する。

科目名は公務員試験対策ゼミとなっているが、これらは就職試験にも役立つ知識であり、最近の地方公務員試験では、市町村を中心にSPIやSCOAを実施するところもあり、それらの内容にも配慮した授業内容にするので、民間企業への就職を考えている学生にも役立つ内容になる。

### 2. 授業の進め方

毎回の授業は、①一般知能テスト(数的推理、資料解釈の過去問を教材にした頻出問題を出題)→②解説講義→③一般常識のポイント解説講義という流れで進んでいく。小論文、作文、適性対策については講義形式をとる。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス 〈数的推理〉	9. n進法・数列
2. 整数の性質	10. 図形の計量 〈資料解釈〉
3. 方程式・不等式・速さ	11. 実数・構成比・指数・増減率
4. 比・割合・濃度	〈小論文・作文・適性〉
5. 平均算・仕事算・ニュートン算	12. 小論文書き方講義
6. 給排水算・通過算	13. 作文書き方講義
7. 覆面算・魔法陣・集合算	14. 適性対策講義
8. 場合の数・確率	15. まとめ講義

※数的推理、資料解釈のほかに社会科学分野の公務員試験に出題されるポイントも解説する。

### 4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが、授業を受けた後は必ず一般知能テストで出題された問題について、授業中にとったノートとは別のノート(これを「課題ノート」と呼ぶ)に問題の解き方を詳細にまとめ直し、すべての問題について何も参照しないで解けるようになるまで、くり返し復習することが求められる。一般常識については、テキストの指定された範囲のポイントを暗記するまで反復する。そのための復習時間としては2時間以上必要になる。

### 5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

テスト、課題ノート返却時に評価のポイントなどを指摘する。

### 6. 授業における学修の到達目標

- (1) 公務員試験に出題される一般知能の解法の基礎が理解できるようになる。
- (2) 公務員試験に出題される社会科学の知識を修得する。
- (3) 公務員試験の小論文、作文の書き方と適性試験対策法が身につくようになる。

## 7. 成績評価の方法・基準

授業内で実施する確認テスト(50%)と課題ノートの提出(50%)によって評価する。

## 8. テキスト・参考文献

- (1) 黒沢賢一著『Point Master 社会科学の論点』(三恵社) 毎回使用するので必ず持参すること。
- (2) その他の受験教材については授業の中で紹介する。

## 9. 受講上の留意事項

毎回、授業のはじめに一般知能のテストをするが、できなくても気にする必要はない。解説講義を聞いて、くり返し復習してできるようになればいい。解説講義はただ聞いているだけでなく、説明の内容をしっかりとメモし、ポイントを聞き逃さないようにすることが大切である。

授業中の私語やスマートフォン、イヤホン等の使用は認めない。

他の学生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意すること。

公務員試験合格を確実にしたいという方には、「社会科学の基礎B」も受講することをすすめる。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。